

科目名	看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)			ナンバリング	PEB123	授業形態	演習
対象学年	1年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	木部美知子	担当教員	大堀昇、矢澤香代子、他				

授業の概要	看護活動に必要な技術とは何かを学び、常に最善で最適な技術を看護の対象者に提供することを考えながら、あらゆる看護場面に必要となる基本的な生活上の看護援助方法について学修する。患者もしくはクライアントの安楽で快適な援助技術を身につける。 プライバシーに配慮した環境整備、環境のアセスメント、活動と運動、体位変換、休息・睡眠の援助、清潔援助、食事介助、排泄援助の基礎技術を学修する。
到達目標	1. 日常生活を支援する看護技術の科学的根、原理・原則を述べることができる。 2. 対象の状態に応じた日常生活の援助の必要性について述べるができる。 3. 対象の安全・安楽・自立に考慮した日常生活を支援する看護技術が実施できる。 4. 看護技術の通して人間の尊厳について考えを述べるができる。 5. 援助的人間関係の基本的な在り方を理解し、看護師としての態度を養うことができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	療養生活をしている人々の生活を支えることについてアセスメントし援助できることを目指します。 対象の立場に立って援助の方法を選択し、看護を考える力を養いましょう。
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】
	<input type="radio"/> 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を身につけている。
	<input type="radio"/> 2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。
	<input type="radio"/> 3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。
	<input type="radio"/> 4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
	<input type="radio"/> 5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 日常生活を支援する看護技術の科学的根、原理・原則を述べるができる。 2. 対象の状態に応じた日常生活の援助の必要性について述べるができる。 3. 対象の安全・安楽・自立に考慮した日常生活を支援する看護技術が実施できる。 4. 看護技術の通して人間の尊厳について考えを述べるができる。 5. 援助的人間関係の基本的な在り方を理解し、看護師としての態度を養うことができる。	1. 日常生活行動と健康との関連について思考を深め、あらゆる看護実践場面に共通する基本技術の方法と根拠述べるができる。 2. 対象の状態に応じた日常生活の援助の必要性について判断・実施できる。 3. 対象の安全・安楽・自立に考慮した日常生活を支援する看護技術が実施できる。 3. 看護の対象者である人間を生活者としてとらえ、人間にとっての日常生活行動の意味を理解し、対象の日常生活を支援するための科学的根に基づいた看護技術実施できる。 5. 援助的人間関係の基本的な在り方を理解し、看護師としての態度を修得する。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○					60%
小テスト・授業内レポート	○	○	○				20%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○			10%
授業態度・授業への参加			○	○			評価に加えず
受講者の発表(プレゼン)	○	○	○	○	○		評価に加えず
演習	○	○	○	○	○		10%
出席			○	○			欠格条件
課題、評価のフィードバック	学習状況の観察、発表等のパフォーマンス、発表内容の評価、ノート、ワークシート、演習記録表、振り返りシート、確認テスト、単元テスト、実技テスト、小テストなど						

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス 1)基礎看護方法論について 2)看護技術とは	看護行為に共通の援助技術、健康的な日常生活行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療・処置に伴う援助技術、特殊な状況下における援助技術に分類し「基礎看護技術」の導入として各々に属する各種の援助技術とは何か	
	第2回	生活を支える援助技術とは 安全を守る技術 ボディメカニクス	1. 安全の意義と確保 2. ケアの中で発生しやすい事故 1. 安楽な体位 2. ボディメカニクス	
	第3回	感染予防を推進する技術	1. 感染予防の意義 2. わが国の感染症に関する法律 3. 感染症を成立させる要素と成立過程 4. 感染症を予防するためのプロセス	
	第4回	感染予防を推進する技術	1. 感染症を予防するためのプロセス 2. 感染予防のための援助方法の選択 3. 感染症予防のための援助技術に対する評価 4. 感染症発症時の対応	
	第5回	感染予防を推進する技術	1. 手洗いの実施（演習） 2. 滅菌手袋の装着と外し方の実施 3. ガウンテクニックの実施	演習 全教員
	第6回	感染予防を推進する技術	1. 手洗いの実施（演習） 2. 滅菌手袋の装着と外し方の実施 3. ガウンテクニックの実施	演習 全教員
	第7回	快適な環境をつくる技術	1. 環境の意義 2. 環境を整える技術 1)快適さを保つ構造－プライバシーを保つことができるアメニティ	
	第8回	快適な環境をつくる技術	1. 環境を整える技術 1)病室の環境と病床の整備 2)病床を整える援助技術 2. 環境のアセスメント	
	第9回	快適な環境をつくる技術	1. ベッドメイキングの実際（演習） 1)リネンのたたみ方 2)ベッドメイキングの方法	演習 全教員
	第10回	快適な環境をつくる技術	1. ベッドメイキングの実際（演習） 1)リネンのたたみ方 2)ベッドメイキングの方法	演習 全教員
	第11回	食事・栄養摂取を促す技術	1. 食事・栄養の意義 2. 栄養と食事に関する基礎知識 1. 食事・栄養に関する援助の実際 1)経口栄養（摂取）法の援助	
	第12回	体温を調節する技術	1. 罨法の目的 2. 温罨法の実施 3. 冷罨法の実施 4. 罨法の評価	
	第13回	活動・運動の技術	1. 活動・運動の意義 2. 活動・運動の生理学的メカニズム 3. 活動・運動のニーズのアセスメント 4. 体位変換、移動・移送	
	第14回	休息・睡眠を促す技術	1. 休息・睡眠の意義 2. 休息・睡眠の生理学的メカニズム 3. 休息・睡眠のニーズに関するアセスメント 4. 休息・睡眠を促す方法の選択	
	第15回	活動・運動の技術	1. 患者の安全・安楽を考えた体位変換の実施（演習） 1)体位変換 2)立位と歩行	演習 全教員
		試験	実施しない	

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	活動・運動の技術	1. 患者の安全・安楽を考えた移動・移送の実施 (演習) 1)車椅子移動の実施	演習 全教員
	第17回	活動・運動の技術	1. 患者の安全・安楽を考えた移動・移送の実施 (演習) 1)車椅子移動の実施	演習 全教員
	第18回	活動・運動の技術	1. 患者の安全・安楽を考えた移動・移送の実施 (演習) 1)ストレッチャー移動	演習 全教員
	第19回	身体の清潔の技術	1. 清潔の意義 2. 皮膚の清潔と健康生活 1. 全身清拭の方法 ケアの結果、期待されること 2. 寝衣交換の方法 ケアの結果、期待されること	
	第20回	身体の清潔の技術	1. 洗髪方法を選択するためのアセスメント 2. 洗髪のカアの結果、期待されること 3. 洗髪の工夫のいろいろ 1. 口腔ケアの方法 アセスメント 結果、期待されること	
	第21回	身体の清潔の技術	1. 就床での全身清拭・寝衣交換の援助方法 (演習) 2. 全身清拭・寝衣交換の実際と評価	演習 全教員
	第22回	身体の清潔の技術	1. 就床での全身清拭・寝衣交換の援助方法 (演習) 2. 全身清拭・寝衣交換の実際と評価	演習 全教員
	第23回	身体の清潔の技術	1. ケリーパッド・洗髪車及び洗髪台を用いた洗髪の援助方法 (演習) 2. 洗髪の実際と評価	演習 全教員
	第24回	身体の清潔の技術	1. ケリーパッド・洗髪車及び洗髪台を用いた洗髪の援助方法 (演習) 2. 洗髪の実際と評価	演習 全教員
	第25回	快適な環境をつくる技術 身体の清潔の技術	1. ベッドメイキングの実際 (演習) 1)就床患者のシーツ交換	演習 全教員
	第26回	快適な環境をつくる技術 身体の清潔の技術	1. ベッドメイキングの実際 (演習) 1)就床患者のシーツ交換	演習 全教員
	第27回	排泄を促す技術	1. 排泄の意義 2. 排泄物の種類 3. 尿の生成と排尿のメカニズム 4. 便の生成と排便のメカニズム	
	第28回	排泄を促す技術	1. 排泄動作の成り立ち 2. 自然排泄のための援助 3. 排尿・排便障害の種類と援助方法の選択 4. 導尿・浣腸・摘便の目的と適応 種類 特徴 方法	
	第29回	排泄を促す技術	1. ベッド上尿器・便器を用いる方法の実際 (演習) 2. 陰部戦場実際	演習 全教員
	第30回	排泄を促す技術	1. ベッド上尿器・便器を用いる方法の実際 (演習) 2. 導尿の方法の実際 3. 浣腸の方法の実際	演習 全教員
	試験	ペーパーテスト(基礎知識を問う)		
授業の進め方	講義と演習の組み合わせで行う			
授業外学習の指示	自主練習  (授業外学習時間: 毎週 120 分)			
教科書	林正健二編: 人体の構造と機能(1)解剖生理学第4版、2016、關戸啓子編: 疾病の成り立ち(4)臨床栄養学第4版、2015、志自岐康子他編: 基礎看護学① 看護学概論第6版、2017、松尾ミヨ子他編: 基礎看護学(2)ヘルスアセスメント第5版、2018、志自岐康子他編: 基礎看護学③ 看護技術第6版、2017他 ナーシンググラフィカ メディカ出版			
参考書	講義で使用する参考書等は、都度manab@IMUに提示			
参考URLなど	講義で使用するスライド資料は、manab@IMUからPDFファイルとしてダウンロードできる。			
その他	予習(教科書・資料・看護援助技術レファレンスの閲覧)と復習(レポートはmanab@IMUに提出)を必ず行う。予習と復習それぞれおおよそ90分の学習時間を確保する。			